

Model PD204 取扱説明書

<バージョン 1.30 対応 追補版 >

バージョン 1.30 の PD204 は USB メモリー対応となり、[USB (HOST)] ポートが使用可能になりました。これにより、FAT16/FAT32 の USB メモリーを使ってオート・コピーやファイル・コピーなどが実行できます(詳細は3ページからの説明をお読みください)。

また、本機で記録するオーディオ・ファイルを格納するためのフォルダーが、記録時自動的に作成される“BWFF”フォルダー以外に、手動で作成可能になりました(注意:USBメモリーでは実行できません、詳細は9ページからの説明をお読みください)。

本書ではバージョンアップに伴う新たな機能についてのみ記載していますので、本機をご使用いただくには取扱説明書・本文と併せてお読みください。

目 次

USBメモリーを使った機能について.....	3
[USB (HOST)] ポートの使用について.....	3
USBメモリーを使ったオート・コピー.....	4
USBメモリーを使ったファイル・コピー.....	5
USBメモリーにコピーしたオーディオ・ファイルの再生.....	6
USBメモリーのフォーマット.....	7
USBメモリーを使ったバージョンアップ.....	8
記録用フォルダーの作成.....	9
新規にフォルダーを作成する.....	9
フォルダー・ネームを編集する.....	10

USB メモリーを使った機能について

本機が USB メモリー対応となり、FAT16/FAT32 の USB メモリーを使って以下の操作が可能になりました。

(1) オート・コピー / ファイル・コピーのコピー先に、USB メモリーが使用可能 (4、5 ページ)

(2) USB メモリーにコピーしたオーディオ・ファイル (BWF ファイル) の再生が可能 (6 ページ)

< 注意 > : USB メモリーへリアルタイムに記録することはできません。

(3) 本機 MENU モードの “ DISK UTILITY ” にある “ Format ” メニューで、USB メモリーのフォーマットが可能 (7 ページ)

< 注意 > : 本機で行う USB メモリーのフォーマットは、既にフォーマットされている FAT16 / FAT32 のまますべてのデータを消去 (All Erase) して、新たな Reel Number を付加します。

(4) USB メモリーを使って、本機ソフトウェアのバージョンアップが可能 (8 ページ)

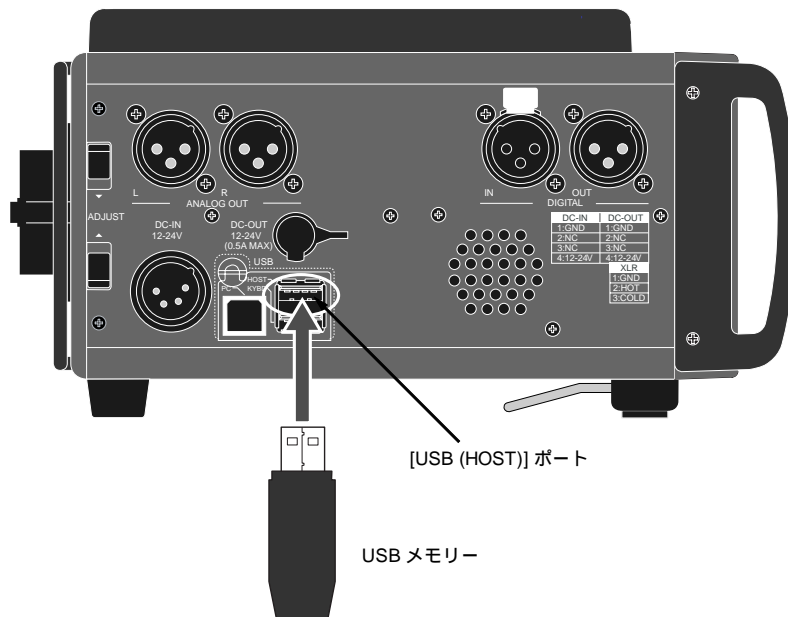
[USB (HOST)] ポートの使用について

FAT16/FAT32 の USB メモリーを、本機左サイド・パネル部にある [USB (HOST)] ポートへ接続して使用します。USB メモリーは本機電源の ON/OFF に関わらず接続可能ですが、接続および取り外しする場合には下記事項にご注意ください。

< 接続時の注意 > : USB メモリーは、必ず上側の [USB (HOST)] ポートへ接続してください。下側の [USB (KYBD)] ポートは USB キーボード接続用のポートです。また、[USB (HOST)] ポートと [USB (PC)] ポートは、同時に接続しないでください。[USB (PC)] ポートに USB ケーブルが接続されている状態では、[USB (HOST)] ポートに接続する USB メモリーが認識されません。

< 取り外し時の注意 > : USB メモリーを [USB (HOST)] ポートから外す場合は、必ず USB メモリーのアクセスが停止していることを確認してから行ってください。メモリー内のデータ消失や、故障の原因となることがあります。

< USB メモリーに関する注意 > : ご使用いただく USB メモリーのコントローラとの相性によっては、本機で認識できなかったり、動作が不安定になる場合があります。あらかじめ使用する USB メモリーの動作をご確認の上ご使用ください。



USB メモリーを使ったオート・コピー

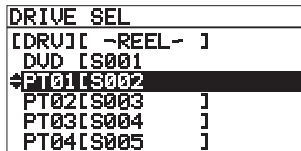
オート・コピーとは、内蔵HDDのパーティションへ記録するとき、記録するオーディオ・データと同様のファイルをDVD-RAMディスクへ自動的にコピーする機能ですが、バージョンアップによりコピー先のドライブにUSBメモリーが使用できるようになりました。これにより、パーティションへの記録時に加え、DVD-RAMディスクへの記録時にもUSBメモリーを使ってオート・コピーが実行できます。下記操作は、[USB (HOST)] ポートにUSBメモリーがマウントされていることを前提にしています。なお、DVD-RAMディスクを使ったオート・コピーについては、取扱説明書・本文の104ページをお読みください。

< Memo > : USBメモリーを使ったオート・コピーでは、コピー元となるパーティションやDVD-RAMディスク側のファイル・ネームのリネーム、FALSE START、CIRCLE TAKE、DISK UTILITYメニューにあるFile info内のEdit descriptor/XLM descriptor、およびフォルダー・ネームの変更を行った場合、USBメモリー側のデータにも反映されます。

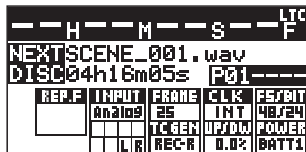
< Memo > : USBメモリーを使ったオート・コピーでは、パーティション（またはDVD-RAMディスク）への記録が終了し、本機がSTOPモードになった時点でUSBメモリーへのコピーを実行します。なお、万一USBメモリーのセットを忘れていても、パーティション（またはDVD-RAMディスク）への記録中または終了後セットすることでコピーを開始します。

< 注意 > : USBメモリーをセットする前に本機の電源を切ると、USBメモリーにはコピーされません。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。カレント・ドライブのセレクト画面に変わります。



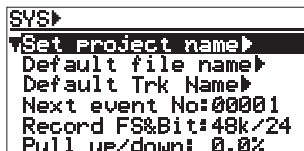
- (2) [MENU] ダイアルで記録するパーティションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。ここでは例として、未記録のパーティション1(PT01)を選択し、下記Home画面が表示されていることを前提にします。



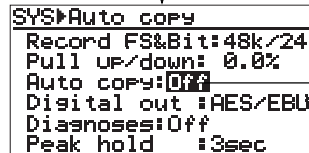
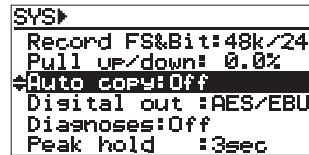
- (3) [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- (4) “SYS SETUP”メニューが反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。SYS SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- (5) [MENU] ダイアルで“Auto copy”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。現在設定されているオート・コピー・モードが点滅する画面に変わります（初期設定では“Off”が点滅します）。

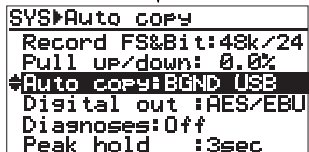
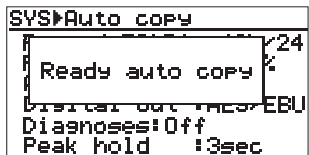


点滅

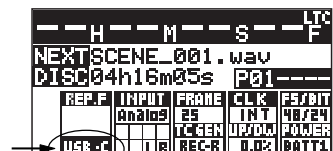
オート・コピー・モードは、初期設定の“Off”以外に“IMME” (Immediatelyモード)、“BGND” (Backgroundモード)、またはバージョンアップで追加した“BGND USB” (Background USBモード)が選択できます。

“IMME”と“BGND”はDVD-RAMディスクを使うときに選択し、USBメモリーを使うときは“BGND USB”を選択します。

- (6) [MENU] ダイアルでオート・コピー・モードに“BGND USB”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。“Ready auto copy”を一瞬表示して、“BGND USB”モードが設定されます。



- (7) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。MENUモードに入る前のHome画面に変わり、ディスプレイのステータス表示部下に“USB-C”マークが点灯します。



- (8) [REC] キーをスライドして記録を開始します。
パーティションのリメイン表示と、USBメモリーのリ
メイン表示が交互に点滅した状態で記録を開始します。
- (9) [PAUSE] キーを押して、記録を終了します。
パーティションへの記録が終了すると自動的にUSBメ
モリーへのコピーを開始し、開始時には“Backup copy
start!”を数秒点灯し、コピーが終了すると“Backup
copy Finished!”が点灯してHome画面に変わります。

<注意> :USBメモリーは、オート・コピー終了後USB
メモリーのアクセスが完全に停止している状態で外し
てください。

<注意> : オート・コピーを必要としない場合は、
“Auto copy”メニューを“Off”に設定し直してくだ
さい。

<注意> :パーティション(またはDVD-RAMディスク)
への記録終了後USBメモリーへコピーが行われている間、あ
るいはUSBメモリーが未セットの状態でのパーティション
(またはDVD-RAMディスク)への記録終了後は、パーティ
ションの切り換えはできません(切り換えようとしても下記
ポップアップが表示され、操作は無効となります)。

```
-- Busy ----
Pls wait & retry
```

他のパーティションなどへの切り換えは、USBメモリーへ
のコピーが終了した時点で可能になります。

<Memo> :USBメモリーへのコピー実行中またはUSB
メモリーをセットする前にオート・コピーを中止したい場
合は、速やかにMENUモードの“Auto copy”メニュー
を“Off”に設定し直してください。

USBメモリーを使ったファイル・コピー

ファイル・コピーとは、DVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティションに記録されているオーディオ・ファイルを、DVD-RAMディスクとパーティション間(または異なるパーティション間)でファイル単位でコピーする機能ですが、コピー先にUSBメモリーが使用できるようになりました。ここではUSBメモリーを使ったファイル・コピーの操作手順のみを記載していますので、その他のファイル・コピーについては取扱説明書・本文の110ページを参照してください。

<注意> :USBメモリーを使ったファイル・コピーは、DVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティションとの間で実行できますが、あくまでもファイル・コピーのコピー先としてのみ使用でき、コピー元に使用することはできません。つまり、USBメモリー内にあるオーディオ・ファイルをDVD-RAMディスクや内蔵HDDのパーティションへコピーすることはできませんのでご注意ください。

<注意> :DVD-RAMディスク(またはUSBメモリー)へのコピー時、コピー先と同じ名前のファイルが存在する場合は、コピーの対象に選択したファイルはキャンセルされてしまいます。また、同じ名前のALEファイルが存在する場合は、常にオーバー・ライトされALEファイルは更新されます。このようなことから、下記操作手順の(5)において“<All Select>”を選択することで効率良くフォルダー以下のコピーが作成できます。

下記操作は、カレント・ドライブのパーティション1に記録されているオーディオ・ファイルを、USBメモリーへファイル単位でコピーすることを前提としています。

なお、DVD-RAMディスク(またはパーティション)に複数のフォルダーが作成されている状態からコピーするフォルダーを選択するには、後述9ページに記載されている「任意のフォルダーを選択する」を参照して、事前に希望のフォルダーを選択してください。

- (1) 停止状態で[SHIFT]キーを押して、ShiftモードをONにした後[ENTER/YES]キーを押します。
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

- (2) [MENU]ダイヤルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES]キーを押します。
“DISK UTILITY”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

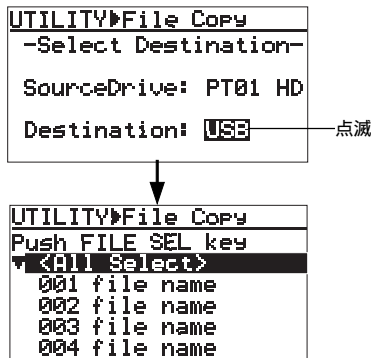
```
MENU▶DISK UTILITY▶
Edit file name▶
File info.▶
Delete file▶
Restore Del. file▶
Format▶
Reel No:[**** ]
```

- (3) [MENU]ダイヤルで“File copy”メニューを選択して、[ENTER/YES]キーを押します。
コピー先のドライブ(またはパーティション)を選択する画面に変わります。

```
MENU▶DISK UTILITY▶
Part. protect:Off
File copy▶
Disk copy▶
Make folder▶
Edit folder name▶
HDD Ope. Time:**H
```

```
UTILITY▶File Copy
-Select Destination-
SourceDrive: PT01 HD
Destination: [UD] 点滅
```

- (4) [MENU]ダイヤルでコピー先のドライブに“USB”を選択して、[ENTER/YES]キーを押します。
コピーするオーディオ・ファイルの選択画面に変わります。



(5) コピーするファイルを選択します。

全ファイルを選択する場合：
 “<All Select>” が反転している状態で [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押すと、全ファイル・リストの先頭に「チェック・マーク」が付加されます。

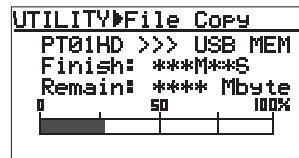


個々のファイルを選択する場合：
 [MENU] ダイアルで任意のファイルを選択して [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押すと、選択したファイル・リストのみに「チェック・マーク」が付加されます。



< Memo > : チェック・マークを解除するには、[MENU] ダイアルでファイル・リストを選択して再度 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押してください。

(6) ファイルの選択後、[ENTER/YES] キーを押します。
 パーティション1からUSBメモリーへのファイル・コピーを開始し、終了すると“Completed!”が点灯します。



< Memo > : コピー先のUSBメモリーには、コピー元で選択したフォルダーと同名のフォルダーが作成され、そのフォルダーに選択したオーディオ・ファイルがコピーされます。また、ALEファイルは“Info”フォルダーにコピーされます。

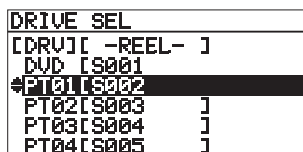
(7) [EXIT] キーを押して MENU モードから抜け出します。

USBメモリーにコピーしたオーディオ・ファイルの再生

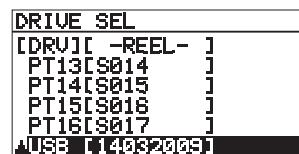
前述の「ファイル・コピー」や「オート・コピー」で、USBメモリーへコピーしたオーディオ・ファイル (BWFファイル) を再生して確認することができます。下記操作手順は、現在内蔵HDDのパーティション1 (PT01) に記録されているオーディオ・ファイルが立ち上がり、「ファイル・コピー」や「オート・コピー」でコピーしたUSBメモリーが [USB (HOST)] ポートにマウントされていることを前提としています。

<注意> : PC側にあるオーディオ・ファイル (BWF) をUSBメモリーへコピーして本機で再生するには、再生するファイルが格納されているフォルダーごとコピーするか、ファイル単体をUSBメモリー内にある既存のフォルダーへコピーしてください。万一下図のようにオーディオ・ファイルのみをUSBメモリーにコピーした場合は、本機で認識できず再生することができません。

(1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。
 カレント・ドライブのセレクト画面に変わります。



(2) [MENU] ダイアルを右 (時計方向) へ回していき、“USB” をカレント・ドライブに選択します。
 マウントされたUSBメモリーは、ドライブ・セレクト画面の一番最後尾に表示されます。

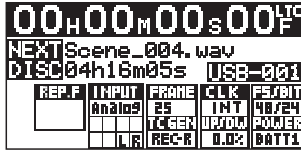


(3) [ENTER/YES] キーを押します。
 カレント・ドライブにUSBメモリーがセレクトされ、USBメモリー内のフォルダー・選択画面に変わります。



<注意> : USBメモリー内に“BWFF (bwff)” というネームのフォルダーしかない場合は、前述の「ディレクトリーのセレクト画面」を表示することなく、“BWFF (bwff)” フォルダー内に一番最初に格納されたオーディオ・ファイル (BWF) のHome画面で立ち上がります。

(4) [MENU] ダイアルで希望のフォルダーを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
 フォルダー内の一番最初にエントリされているオーディオ・ファイルが立ち上がり、再生が可能になります。



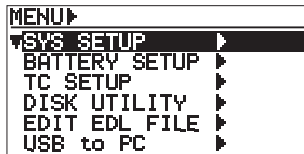
ドライブ・ネーム
(USB)とファイル・ナンバーを表示します。

< Memo > : 選択したフォルダー内に格納されている任意のオーディオ・ファイルを選択するには、[|◀◀] / [▶▶|] キーを押して選択するか、[FILE SEL/DRV.PAT] キーを押した後ファイル・セレクト・モードを使って選択します (ファイル・セレクトの詳細については、取扱説明書・本文の96ページを参照してください)

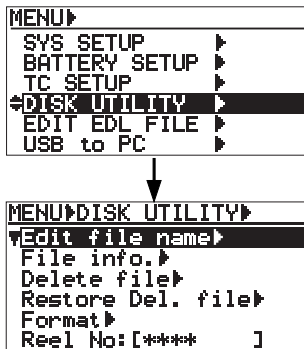
USBメモリのフォーマット

MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Format”メニューで、USBメモリのフォーマットが可能になりました。USBメモリのフォーマットは、既にフォーマットされているFAT16/FAT32のまま、USBメモリ内にある全データを消去 (All Erase) して新たなReel Numberを付加します。ここではUSBメモリのフォーマット手順を記載していますが、DVD-RAMディスクおよび内蔵HDDをフォーマットするには、取扱説明書・本文の198ページを参照してください。なお、下記操作は内蔵HDDのパーティション1がカレント・ドライブにセレクトされ、本機の[USB (HOST)]ポートにフォーマットすべきUSBメモリがマウントされていることを前提としています。

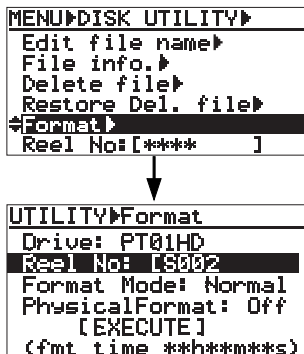
- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



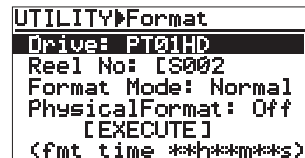
- (2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
“DISK UTILITY”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



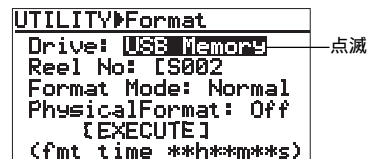
- (3) [MENU] ダイアルで“Format”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
フォーマットに必要な設定画面に変わります。



- (4) [MENU] ダイアルで“Drive: PT01HD”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
現在の設定が点滅し、ドライブの選択が可能になります。



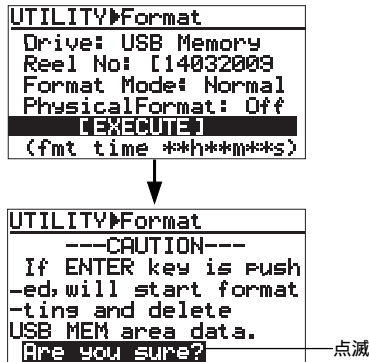
- (5) [MENU] ダイアルで“USB Memory”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
USBメモリのReel Numberが反転する画面に変わります。初期設定のReel Numberは、USBメモリーをセットした年月日を8桁の数字で表示します。



ここでは、現在表示されているReel Numberのままつぎの操作へ進みます。任意にReel Numberを編集するには、取扱説明書・本文の202ページを参照してください。

< Memo > : USBメモリのフォーマットでは、“Format Mode”(“Normal”)と“Physical Format”(“Off”)は現在表示されているモードで固定され、任意に選択することはできません。

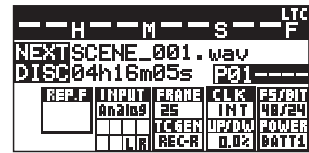
- (6) [MENU] ダイヤルで “[EXECUTE]” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。警告画面に変わり、“Are you sure?” が点滅します。



- (7) [ENTER/YES] キーを押します。フォーマットが実行され、終了すると“Fmt.Completed!” が点灯します。



- (8) [EXIT] キーを押して MENU モードから抜け出します。カレント・ドライブがUSBメモリーに切り替わり、下記 Home 画面に変わります。



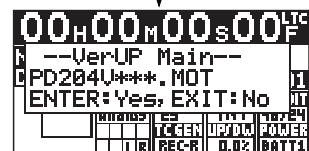
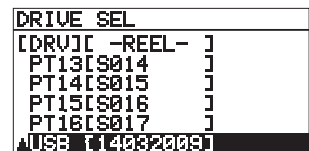
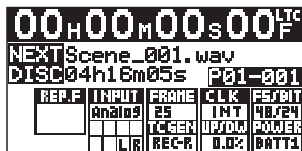
< Memo > : カレント・ドライブに内蔵HDDのパーティションが立ち上がっている状態でUSBメモリーをフォーマットすると、フォーマット後はUSBドライブで立ち上がります。

< 注意 > : フォーマットしたUSBメモリーには、リアルタイムに記録することはできません。本機で新たな記録を行うには、カレント・ドライブを切り換えてご使用ください。

USBメモリーを使ったバージョンアップ

DVD-RAM ディスク / CD-ROM と同じ要領で、USBメモリーを使ってソフトウェアのバージョンアップが実行できます。バージョンアップを実行するためには、事前に当社ホームページ (<http://www.fostex.jp>) からバージョンアップ用のファイル (“PD204V***.MOT”) をダウンロードして、PC側でUSBメモリーにファイルをコピーしてください。

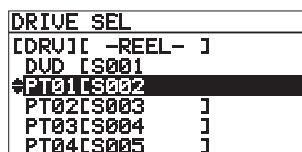
下記操作は、現在カレント・ドライブに内蔵HDDのパーティション1がセレクトされ、下記例のようなHome画面が立ち上がっていることを前提にしています。



- (1) [USB (HOST)] ポートに、バージョンアップ用のファイルがコピーされたUSBメモリーをセットします。下記ポップアップ画面が一瞬点灯して、USBメモリーがマウントされたことを示します。

USB mem.attached

- (2) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。カレント・ドライブの選択画面に変わります。



- (3) [MENU] ダイヤルで “USB” をカレント・ドライブに選択して、[ENTER/YES] キーを押します。USBメモリー内のバージョンアップ用ファイルを読み込み、つぎの画面に変わります。

バージョンアップしない場合は、上記画面の状態で [EXIT] キーを押してください。

- (4) [ENTER/YES] キーを押します。バージョンアップが開始され、実行中を示すポップアップ画面が順に点滅して表示されます。終了するまでしばらくお待ちください。バージョンアップが終了と同時に、USBメモリーのHome画面に変わります。

< Memo > : USBメモリー内にバージョンアップ用のファイルしかない場合、バージョンアップ終了後のHome画面には “--H--M--S--F” を表示します。

- (5) PD204 本体の電源を入れ直します。

記録用フォルダーの作成

未記録のDVD-RAM ディスク（または内蔵HDDのパーティション）に初めて記録すると自動的に“BWFF”フォルダーが作成され、記録したオーディオ・ファイルはその“BWFF”フォルダー内に格納されていましたが、バージョンアップにより記録したオーディオ・ファイルを格納するフォルダーをPD204本体で任意に作成することが可能になりました。

また、作成するフォルダーにはオリジナルのフォルダー・ネームも付けられ、フォルダー作成後も編集が可能です。

フォルダーの作成およびフォルダー・ネームの編集は、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューに追加した“Make folder”メニューおよび“Edit folder name”メニューで実行できます（下記操作方を参照してください）。

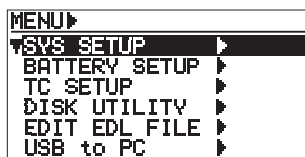
新規にフォルダーを作成する

下記操作は、内蔵HDDのパーティション1がカレント・ドライブにセレクトされ、パーティション内の“BWFF”フォルダーに格納されているオーディオ・ファイルが立ち上がっていることを前提としています。

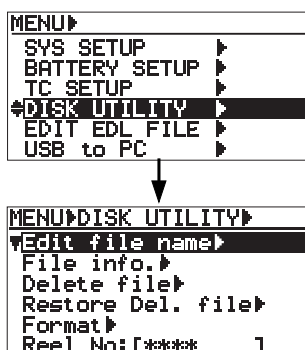
<Memo>：フォルダーは、自動的に作成されるBWFFフォルダーを含め最大32個まで作成可能です。これにより、記録可能なオーディオ・ファイル（BWF）は、250 x フォルダー数に拡張されました。

<注意>：USBメモリーには本機でフォルダーを作成できません。作成できるのは、カレント・ドライブにセレクトされたDVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティションです。

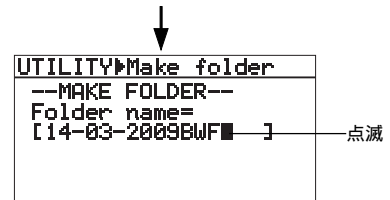
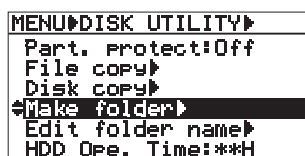
- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- (2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
“DISK UTILITY”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- (3) [MENU] ダイアルで新たに追加した“Make folder”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。
新たに作成するフォルダーのフォルダー・ネームを入力する画面に変わります。



- (4) 下記操作例を参照して、フォルダー・ネームを入力します。最大16文字まで入力が可能です。

カーソルを左右に移動する

[◀◀] キー / [▶▶] キーを押します。

文字 / 記号などを入力する

カーソル位置で [MENU] ダイアルを操作するか、10 キーを押します。

カーソル位置の文字を消去する

[CLEAR] キーを押します。

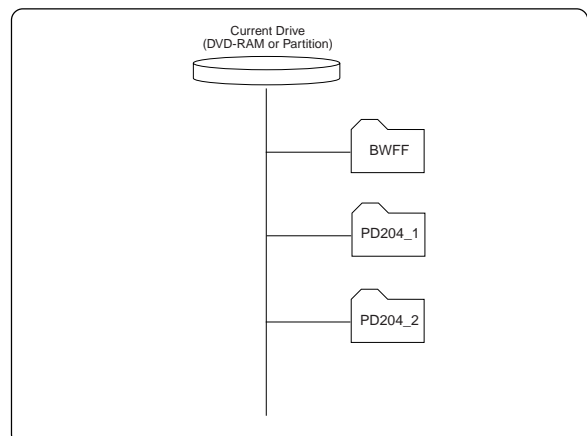
<Memo>：フォルダー・ネームを任意に編集せず、初期設定のまま作成することも可能です。フォルダー作成後にネームを編集するには、次項の「フォルダー・ネームの編集」を参照してください。

- (5) 入力終了後 [ENTER/YES] キーを押します。
入力したフォルダー・ネームが確定し、MENUモードに入る前のHome画面に変わります。

任意のフォルダーを選択する

カレント・ドライブ（DVD-RAMまたは内蔵HDDのパーティション）に作成した複数のフォルダーから、記録/再生するフォルダーを選択します。

ここからの操作は、内蔵HDDのパーティション1に“BWFF”フォルダー以外に、“PD204_1”フォルダーと“PD204_2”フォルダー（いずれも仮名）が作成されていることを前提としています。



- (1) [SHIFT] キーを押して Shift モードを ON にした後、[FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。カレント・ドライブの選択画面に変わります。

DRIVE SEL	
[DRV][-REEL-]	
DVD [S001	
*PT01[S002	
PT02[S003]	
PT03[S004]	
PT04[S005]	

- (2) [MENU] ダイアルで “ PT01 [S002] ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。パーティション 1 (PT01) 内に作成されている、フォルダーの選択画面に変わります。

DIRECTORY SEL	
[DIRECTORY NAME]	
*001 BWFF	
002 PD204_1	
003 PD204_2	

<Memo>：上記フォルダーの選択画面例では、“ 001 BWFF ”が初めて記録したとき作成されたBWFFフォルダーで、“ 002 PD204_1 ”と“ 003 PD204_2 ”が新規に作成したフォルダーを示しています。

- (3) [MENU] ダイアルで希望のフォルダーを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。選択したフォルダーに一番最初に格納されたオーディオ・ファイルの Home 画面に変わります。

<注意>：選択したフォルダー内にオーディオ・ファイルが存在しない場合は、下記例のように “ --H --M --S --F ” を表示します。

--H--M--S--F				LTC
NEXTSCENE_001.wav				
DISC04h16m05s P01----				
REP	INPT	FRAM	CLK	FEVBIT
	Analog	ES	INT	48/24
		SCREEN	UP/DW	POWER
	L/R	REC/R	0.0%	BATT1

<Memo>：現在どのフォルダーが選択されているか確認するには、ファイルの Home 画面を表示している状態で [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押してください。ファイル・セレクト画面 “ FILE SEL> ” の右 (下記矢印部分) に現在セレクトされているフォルダー名を表示します。下記例は、現在 BWFF フォルダーがセレクトされていることを示しています。

FILE SEL▶BWFF ←	BWFF
[FNO]	[FILE NAME]
*001	Action-001.wav
002	Action-002.wav
003	Action-003.wav
004	Action-004.wav
005	Action-005.wav

フォルダー・ネームを編集する

既存のフォルダー・ネームを編集して、再登録します。

<注意>：フォルダー・ネームの編集は、カレント・ドライブ内であらかじめ選択されたフォルダーのみ可能です。事前に編集するカレント・ドライブとフォルダーを選択してから下記操作を行ってください。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、Shift モードを ON にした後 [ENTER/YES] キーを押します。MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

MENU▶	
*SYS SETUP ▶	
BATTERY SETUP ▶	
TC SETUP ▶	
DISK UTILITY ▶	
EDIT EDL FILE ▶	
USB to PC ▶	

- (2) [MENU] ダイアルで “ DISK UTILITY ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。“ DISK UTILITY ” メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

MENU▶	
SYS SETUP ▶	
BATTERY SETUP ▶	
TC SETUP ▶	
*DISK UTILITY ▶	
EDIT EDL FILE ▶	
USB to PC ▶	

MENU▶DISK UTILITY▶	
*Edit file name▶	
File info.▶	
Delete file▶	
Restore Del. file▶	
Format▶	
Reel No:[****]	

- (3) [MENU] ダイアルで新たに追加した “ Edit folder name ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。カレント・フォルダーのフォルダー・ネームを入力する画面に変わります。

MENU▶DISK UTILITY▶	
Part. protect:Off	
File copy▶	
Disk copy▶	
Make folder▶	
*Edit folder name▶	
HDD Ore. Time!***H	

UTILITY▶Folder name	
--EDIT FOLDER NAME--	
[BWFF]

カーソル点滅

- (4) 任意のフォルダー・ネームに編集します。前述 9 ページ記載の入力方法を参照してください。
- (5) ネーム入力終了後、[ENTER/YES] キーを押します。入力したフォルダー・ネームが確定し、MENU モードに入る前の Home 画面に変わります。

Fostex フォステクス カンパニー

国内営業グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35
042-546-6355 FAX. 042-546-6067